

麻酔薬と上気道開存性特論（讃岐拓郎）

Advanced Course of Upper Airway Patency Under Anesthesia (Takuro Sanuki)

キーワード

- ① 上気道
- ② 静脈麻酔
- ③ 静脈内鎮静法
- ④ 気道開存性
- ⑤ 気道虚脱性

授業概要

麻酔薬による上気道開存性の喪失（上気道閉塞）は、患者の予後に大きな影響を与える問題であり、これまでに多くの研究がなされている。麻酔と睡眠が上気道に与える影響は非常に類似性が高いため、両分野の研究結果はお互いに影響を与え合っている。本講義では、麻酔薬による上気道開存性、特に鎮静レベルでの気道開存性を中心に解説や論文抄読を通じて専門的知識を修得することを目標とする。

授業科目の学修目標

麻酔薬による上気道開存性の喪失（上気道閉塞）は、患者の予後に大きな影響を与える問題であり、これまでに多くの研究がなされている。本講義を通じて現在までに得られている知見を修得し、本分野における新たな研究テーマを立案できる能力を身につけることを目標とする。

授業計画

- ① 上気道の基礎（解剖と生理学） 8コマ 讃岐拓郎
- ② 麻酔薬の上気道への作用－基礎的・臨床的検証 10コマ 讃岐拓郎
- ③ 上気道の定量的評価法 6コマ 讃岐拓郎
- ④ 上気道研究の進展 6コマ 讃岐拓郎

教科書および参考書

- ① 鮎瀬卓郎, 倉田眞治, 讃岐拓郎. 鎮静中の上気道開通性をどう維持し管理するか. 臨床麻酔 44(11): 1423-1434 2020

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

授業計画の各項目では、すでに修得した麻酔と全身疾患に関する基礎的知識を土台にして、各領域の関連論文を批判的に熟読し、各項目の研究手法および理論的背景を議論することを通して、より高度な知識の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 上気道の基礎（解剖と生理学）について説明できる
- ② 上気道閉塞のメカニズムを説明できる
- ③ 麻酔薬の上気道への作用を、基礎的および臨床的視点から説明できる
- ④ 上気道開存性に関する研究の手法、結果およびトレンドについて説明できる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	0%	40%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・成果発表は、①～④の中から各項目について成果を発表する。10%×4回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い、知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

麻酔薬と上気道開存性特論の理想的な達成レベルは70%以上とする。